書評

中村好一（著）

基礎から学ぶ楽しい学会発表・論文執筆 第2版

佐伯圭吾

奈良医大教授・疫学・予防医学

本書は主に，保健活動に従事するコメディカルスタッフや学生を含む初学者が，日本語での学会・論文発表をめざす際の指南書として書かれたもので，疫学書では最も人気がある中村好一氏による『基礎から学ぶ 楽しい疫学』の姉妹書である．

これから研究を始める人が，最初に読む本としてお薦めしたい．「なぜ研究を行うか」「研究指導者をどのように求めるか」から始まって，研究の実施，分析，学会発表，論文執筆，投稿，査読の過程に区分され，それぞれのステップをどのように考え，どのように進めていくかが，ありありと目に浮かぶように書かれている．読者は，各ステップを思い浮かべて読み進めていくうちに，研究プロセスを俯瞰することができ，高く感じていたハードルが，いつの間にか取り組むべき具体的な課題に変わっていることに気付くのではないだろうか．

論文に書かれるべき内容については，観察研究のSTROBE，無作為化比較試験のCONSORTといった国際ガイドラインに示されている．本書はこのような一般原則を，単に説明するのではなく，著者が経験した具体的事例を紹介しながら，どのように考えるかが述べられている．このシリーズの最も印象的な特徴は，脚注が多い点である．1ページに5〜6つの脚注がみられる場合もめずらしくない．しかし脚注といっても引用文献の記載ではなく，ほとんどの場合が著者による本文の解説なのである．この独特のスタイルは意外にも読みやすく，同シリーズの人気の秘訣ではないかと思われる．また「べからず集」として，良くない例を挙げながら，視点を変えて解説するなどの工夫が凝らされている．

本書は初学者に向けて書かれているが，科学研究の本質にかかわる議論を避けていない．論点は研究の倫理面の配慮，研究者間のコミュニケーションのあり方や科学の進歩などに及ぶ．医学研究者が，個人の意見や考え方を発信する場が少ない現在において，経験豊かな疫学者の考えに触れることは，多くの医学研究者にとっても有用だろう．

分野の専門家による分担執筆書と違って，本書では最初から最後まで，著者の考えが貫かれている．「研究は，研究者のみがやればよいものではない．保健・医療の最前線で活躍する実務者が，現場の経験や課題を学会や論文発表によって共有し，その分野の進歩につなげてほしい」という著者の願いが詰まった一冊だと感じた．

●A5/頁 240/2021年06月
定価：3,080円
（本体2,800円＋税10%）
[ISBN978-4-260-04651-0]
医学書院 刊

©IGAKU-SHOIN Ltd. 2022

2026/10/08 04:37:03